

タイトル	日高理恵子 村瀬恭子 吉澤美香 ドローイングから。
会期	2019/10/14 (Mon.) -2019/10/28 (Mon.)
会場	多摩美術大学 八王子キャンパス アートテークギャラリー 101, 102, 103, 104, 105 〒192-0394 東京都八王子市鎌水 2-1723
主催	多摩美術大学美術学部芸術学科 展覧会設計ゼミ 担当教員：家村珠代 ゼミ生：宮越大空 黄夢圓 戸谷莉維娑 藤井奈穂 BAO WENXIN
開場時間	10:00 - 18:00
休館日	10/20 (Sun.) , 10/22 (Tue.) , 10/27 (Sun.)
アクセス	橋本駅より： 北口 6 番乗り場より神奈川中央交通バス「多摩美術大学行」約 8 分 八王子駅より： 南口 5 番乗り場より京王バス「急行多摩美術大学行」約 20 分
観覧料	無料
お問い合わせ	TEL：042-679- 5627 (多摩美術大学美術学部芸術学科研究室) Email：tenrankai2019@gmail.com FAX：042-679-5649
ホームページ	http://www.tamabi.ac.jp/geigaku/iemuraseminar/
イベント	<p>【トークセッション】</p> <p>出品作家：日高理恵子 村瀬恭子 吉澤美香</p> <p>ゲスト：成相肇 (東京ステーションギャラリー学芸員・評論家) 中尾拓哉 (美術評論家)</p> <p>日時：2019/10/26 (Sat.) 14:00-16:00</p> <p>会場：多摩美術大学 八王子キャンパス 展覧会会場内</p> <p>事前申し込み制・先着順</p> <p>* 受付は全てHP内イベントページにて行います。</p> <p>* 予約開始日は随時HPにてお知らせします。</p> <p style="text-align: right;">※内容は予告なく変更となる場合があります。</p>

展覧会ステイトメント：

多摩美術大学美術学部芸術学科「家村ゼミ展」は、2017年に始まり、第一回は「高柳恵里×高山陽介×千葉正也」、第二回は泉太郎の個展を開催いたしました。いずれの展覧会も、展覧会の完成形をあらかじめ定めず、作家・学生・教員、さらにはその周辺をも巻きこみ、考える過程そのものを運動体として提示する行ないを指して展覧会と捉え、展覧会の再考を教育の現場で試みてきました。

三年目となる今年は、「日高理恵子 村瀬恭子 吉澤美香—ドローイングから。」を開催いたします。

絵画作品の基となるドローイングには、作家の思考、身体性や感覚が無垢なままに（溢れんばかりに）詰まっています。本展は絵画の一步手前に遡り、ドローイングから、絵画の生成を再考しようとするものです。

出発点として、まず「ドローイング研究会」を立ち上げました。メンバーは、作家の日高理恵子、村瀬恭子、吉澤美香、キュレーターの蔵屋美香、家村珠代、そしてゼミ生たち。メンバーの作家が、芸術学科研究室にドローイングを持ち込み、展示し、その一点一点について丁寧に討論を重ねました。展覧会では、さらにその延長として、選定したドローイング作品とペインティング作品とで構成していきます。

三作家それぞれ、ドローイングの捉え方も形態も大きく異なります。

空と顔が平行になるくらいに首を曲げながら木を見上げ、180度下を向き直し筆圧の強い線で「空との距離」を平面に刻み出現させようと試みる日高からは、「見切ることができない」「見切れない」という言葉が研究会で頻繁に使用されました。

村瀬は、ドローイングとは、目の前の画面をあたかも張り詰めた水面を揺らすようにして、そこに現れてはすぐ消えてしまうような微かなことを、立ち上らせ留める一番の幸福な場である、と語りました。

透明感があり、カラフルで浮遊感のある作風が印象的な吉澤からは、意味性やストーリーを限定しない、むしろ解放することから発想がなされ、さらにドローイングとペインティングの区別はないことが明かされました。

一点一点ドローイングを熟読する研究会から始まり、これをどのように展覧会という形に反映できるのか、できないのか。今年も、展覧会オープンまで、試行錯誤は続きます。

作家略歴：

日高理恵子

1958年東京都生まれ。

1985年、武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。

1995年から1996年まで、文化庁芸術家在外研修員としてドイツに滞在（クンストアカデミーミュンスターに在籍）。

主な個展に、「近作展 22 日高理恵子」（国立国際美術館、大阪、1998年）、「The Space of Trees」（アートカイトミュージアム、ドイツ、2003年）、「日高理恵子 空と樹と」（ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡、2017年）、「見ること—作品集 1979-2017より」（小山登美夫ギャラリー、東京、2018年）など。主なグループ展に、「CHIKAKU: Time and Memory in Japan」（クンストハウス・グラーツ&カメラ・オーストリア、オーストリア、他巡回、2005年）、「Rising Sun, Melting Moon: Contemporary Art in Japan」（イスラエル美術館、イスラエル、2005年）、「Kami, Silence-Action: Japanese Contemporary Art on Paper」（ザクセン州立美術館銅版画館、ドイツ、2009年）、「山荘美学：日高理恵子とさわひらき」（アサヒビール大山崎山荘美術館、京都、2010年）など。

村瀬恭子

1963年岐阜県生まれ。

1989年、愛知県立芸術大学大学院修了。

1990年から1996年まで国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに在籍。1993年には、コンラッド・クラベックよりマイスター・シューラー取得。

主な個展に、「セミとミミズク」（ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡、2007年）、「Fluttering far away」（豊田市美術館、愛知、2010年）、「絵と、vol.3 村瀬恭子」（ギャラリーαM、東京、2018年）、「park」（タカ・イシイギャラリー、東京、2019年）など。主なグループ展に、「MOT アニュアル 2002 フィクション？ 絵画がひらく世界」（東京都現代美術館、東京、2002年）、「六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004」（森美術館、東京、2004年）、「Red Hot: Asian Art Today from the Chaney Family Collection」（ヒューストン美術館、アメリカ、2007年）、「放課後のはらっぱ—櫃田伸也とその教え子たち」（愛知県美術館・名古屋市美術館、愛知、2009年）、「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」（国立国際美術館、大阪、2010年）など。

吉澤美香

1959 年東京都生まれ。

1984 年、多摩美術大学大学院美術研究科修了。

主な個展に、「吉澤美香展」(佐賀町エキジビット・スペース、東京、1987 年)、「吉澤美香の部屋」(いわき市立美術館、福島、1997 年)、「作家の現在 吉澤美香 絵画とドローイングのあいだに」(いわき市立美術館、福島、2005 年)、「共感 Empathy」(ギャラリー・アートアンリミテッド、東京、2017 年)「吉澤美香展 1990-2006」(豊川市桜ヶ丘ミュージアム、愛知、2018 年)など。主なグループ展に、「第 18 回サンパウロ・ビエンナーレ」(ブラジル、1985 年)「Documenta 8」(ドイツ、1987 年)、「Art in Japan Today 日本の現代美術 1985-1995」(東京都現代美術館、東京、1995 年)、「起点としての 80 年代」(金沢 21 世紀美術館、石川、他巡回、2018 年)、「ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代」(国立国際美術館、大阪、2018 年)など。